

### 作品紹介⑮

#### 「松其ノ三十二」

山本 修路 作

ロン・ミュエクの部屋を抜けると、回廊を挟んで右の中庭にはゲート状にたわんだ岩と松が置かれています。

写真は山本修路（1979年東京都生まれ）の作品。山本は庭師のアルバイト体験をもとに、「松」をテーマとした作品を作り続けている作家です。平成18年には、現代美術館の工事現場の仮囲いに松の絵を描くワークショップも行いました。本館の作品は、岩と松と芝が一体化し、庭のように作られています。彼が生み出す松はFRP（繊維強化プラスチック）という人工素材を用い、みな不思議な形をしています。当作品も例外ではありません。これは自然物を変化させ、新たな造形を生み出す日本の伝統的な造園様式に基づいています。



「松其ノ三十二」

### 作品紹介⑯

#### 「あっちとこっちとそっち」

山極 満博 作



「あっちとこっちとそっち」より「ぼくはきみになれない」

回廊を挟んで、⑮の向かい側には山極満博（1969年長野県生まれ）の作品があります。山極は日常品を使ったオブジェなど、さまざまな素材を空間に点在させるような作品を手掛けてきました。隙間のような空間に点在する作品はどれも小さく、くすりと笑いを誘います。このネズミのような生き物は、スイスの山奥にすむマーモットで、冬眠から早く目覚め、凍りついてしまったという設定です。館内はマーモットの「おとしもの」や、凍りついた展示室など、全部で4つの作品があります。どこにあるか、宝探しのようにお楽しみください。

### 作品紹介⑳

#### 「フライングマン・アンド・ハンター」

森北 伸 作

先月紹介した「念願の木」のあたりから中庭を見上げると、建物と建物の上に、なにやら二人の人間の像があるのが目にとまります。これは、森北伸（1969年愛知県生まれ）の作品です。

一体は建物の間で突っ張るように手足を広げて、こっけいな姿で空を飛び、もう一体は彼を捕まえようとしているようにも、あざ笑っているかにも見えます。作品は黒い小さな断片を溶接でつなげ合わせて作られており、光の強弱でさまざまな表情を見せます。夜は、色とりどりのライティングの光を受け、独特の影絵を建物に浮かび上がらせます。



「フライングマン・アンド・ハンター」

問い合わせ先

現代美術館 (☎) 011-271-1127